

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 22

コリント人への第一の手紙において (2)

わたしたちの霊の食物、わたしたちの霊の岩、主の食卓の内容

聖書：I コリント 10:3-4, 16-17, 21. 11:23-26

- I. 出エジプト第 16 章の深い真理とは、神がわたしたちの食事を、わたしたちの霊の食物としてのキリストの食事、すなわち、父なる神によって送られた真のマナに変えて、神の選びの民がキリストによって生きるのを願っているということです——I コリント 10:3. ヨハネ 6:31-35, 48-51, 57-58 :
- A. わたしたちがキリストから食べてわたしたちの再構成する要素、またわたしたちの供給とし、わたしたちをこの宇宙で神の住まいとするものは何であれ、永遠の記念となります——出 16:16, 32。
- B. 金のつぼの中のマナが神の住まいの中心点であったように、わたしたちが食べるマナとしてのキリストは今日、神の建造の中心点です——ヘブル 9:3-4. エペソ 4:16. コロサイ 2:19。
- C. わたしたちがわたしたちの実質、力、満足のために取る唯一の食物は、キリストでなければなりません。新約における唯一無二の務めは、神の民の唯一の食物としてのキリストを伝達します——民 11:5-6. 参照、使徒 1:17, 25. II コリント 4:1. I テモテ 1:12. II コリント 3:6。
- D. わたしたちの唯一の食物、日ごとのマナとしてのキリストの特徴は、わたしたちが絶えず彼を享受するとき、わたしたちの新陳代謝の造り変えを通して、彼を大きく表現するためのわたしたちの特徴となります——ヨハネ 6:57. ピリピ 1:20-21. 参照、ガラテヤ 6:17 :
1. マナは奥義です——出 16:15. コロサイ 2:2. イザヤ 9:6. エペソ 3:4. ヨハネ 3:8。
 2. マナは長期間の奇跡です——出 16:4. 参照、マタイ 6:34。
 3. マナは天からです——出 16:4. ヨハネ 6:41。
 4. マナは露を伴って来ます——出 16:13-14. 民 11:9. 詩 133:3. 哀 3:22-23. ヘブル 4:16. 詩 110:3。
 5. マナは朝、来ます——出 16:21. 参照、雅 1:6 後半. 7:12. ヨハネ 5:39-40. ローマ 6:4. 7:6。
 6. マナは小さいです——出 16:14. ルカ 2:12. ヨハネ 6:35. 参照、士 9:9, 11, 13. マタイ 13:31-32。
 7. マナは細かいです——出 16:14. ヨハネ 6:12。
 8. マナは丸いです——出 16:14. ヨハネ 8:58。
 9. マナは白です——出 16:31. 詩 12:6. 119:140. II コリント 11:3 後半。
 10. マナは霜のようです——出 16:14. 箴 17:27。
 11. マナはコエンドロの種のように——出 16:31. 民 11:7. ルカ 8:11。

12. マナは固いです——民 11:8. II コリント 1:4. エペソ 6:18。
13. マナの外觀はブドラクのようなようです——民 11:7. 啓 4:6, 8. エゼキエル 1:18。
14. マナの味は新鮮な油のようです——民 11:8. 詩 92:10。
15. マナの味は蜜でできた極薄のパンのようです——出 16:31. 詩 119:103。
16. マナは平らなパンを作るのに良いのです——民 11:8. I テモテ 4:6。

II. キリストは十字架につけられて、彼の民について来る霊の岩となりました。この着いて来る岩は命を与える霊としての復活したキリストであり、彼は常に召会と共におられて、命の水をもって彼の信者たちに供給します——I コリント 10:4. 出 17:6. 民 20:8. ヨハネ 19:34 :

- A. 神の民の間の問題は、命の水を予表する水が不足することによって起こることがあり得ます。神の民が命の霊に不足するときはいつでも、彼らは問題を持ちます。神の民がその霊の豊富を持つとき、彼ら自身の間の、また神に対する彼らの問題は解決します——民 20:2-13. ヨハネ 7:37-39. ローマ 8:2。
- B. キリストは十字架につけられ、その霊は与えられたので、キリストが再び十字架につけられる必要はありません。すなわち、生ける水を流すために再び岩を打つ必要はありません。神のエコノミーにおいてキリストは一度だけ十字架につけられるべきです——ヘブル 7:27. 9:26-28 前半。
- C. 十字架につけられたキリストから生ける水を受けるために、わたしたちはただ「杖を取り」、「岩に語る」必要があるだけです——民 20:8 :
 1. 杖を取ることは、キリストの死においてキリストと一体化されることであり、キリストの死をわたしたち自身とわたしたちの状況に適用することです。
 2. 岩に語ることは、打たれた岩としてのキリストに直接言葉を語り、その霊がすでに与えられているという事実に基づいて、彼に命の霊をわたしたちに与えるように求めることです——参照、ヨハネ 4:10. ルカ 11:13。
 3. わたしたちがキリストの死を自分自身に適用し、信仰の中でキリストにその霊をわたしたちに与えるように求めるなら、わたしたちは命の満ちあふれる供給としての生ける霊を受けます。
- D. モーセは岩に語ることをしないで、民に対して怒り、彼らが反逆者であると罪定めし、彼の杖で岩を二度打ちました——民 20:9-11 :
 1. モーセは民が反逆者であると罪定めしましたが、モーセが神の言葉に逆らって反逆した者でした—— 24 節. 27:14。
 2. モーセはエホバを信じないで、イスラエルの子たちの前で彼を聖としませんでした—— 20:12 :
 - a. 神を聖とすることは、彼をすべての偽の神々から分離することです。彼を聖としないことは、彼を俗なものとするということです。
 - b. 神が怒っていなかった時に、モーセは民に対して怒ったことにおいて、神を自身の聖なる性質において代行しませんでした。また彼は岩を二度打つことにおいて、神のエコノミーにおいて彼の言葉を守りませんでした。こうして、モーセは神の聖なる性質と神の神聖なエコノミーに背きました。
 - c. このことのゆえに、モーセは神と親密であり、神の仲間と考えられましたが、

(出 33:11)、良き地へと入る権利を失いました。

3. わたしたちが神の民に関して言い行なうすべてにおいて、わたしたちの態度は神の聖なる性質にしたがっていなければならず、またわたしたちの行動は神の神聖なエコノミーにしたがっていなければなりません。これが彼を聖とすることです。そうでなければ、わたしたちは言葉と行動において神に逆らって反逆し、彼を怒らせます。

Ⅲ. 主の食卓の内容としてのキリストは、神の新約エコノミーの実際です—— I コリント 10:16-17, 21. 11:23-26 :

A. 主の食卓の強調点は、彼の血と体の交わり、主にあずかること、相互性の中でまた交わりの中で主を享受することです—— 10:16-17, 21 :

1. 主がご自身をわたしたちに与えられたのは、わたしたちがわたしたちの宴席としての彼にあずかり、彼を食べ飲みすることによって享受するためです。キリストはわたしたちの宴席、すなわち良き地の産物の実際となるために、手順を経なければなりません——参照、申 8:7-10 :

a. もしキリストが肉体と成っていなければ、血と体を持つことはできなかつたでしょう。キリストは肉体と成ることを通して、血と肉を伴う人の体を着ました——ヘブル 2:14。

b. もし彼が十字架につけられていなければ、彼の血は彼の体から分けられることはできなかつたでしょう。十字架につけられることを通して、彼の血は彼の体から分けられました——ヨハネ 6:53-55。

c. もし彼が復活させられていなければ、わたしたちの食物として食卓の上に置かれることはできなかつたでしょう。復活の中で、彼は食卓の上でわたしたちに提供されて、わたしたちの養いと享受のための宴席となりました。わたしたちに彼の体と彼の血をささげる方は、すべてを含む命を与える霊としての復活したキリストです—— I コリント 15:45 後半、II コリント 3:17。

2. 主イエスは、「パンを取り、それを祝福してさき、弟子たちに与えて言われた、『取って食べなさい。これはわたしの体である』」——マタイ 26:26 :

a. パンが示すのは命、神の命、永遠の命です。パンが表徴するのは、主がわたしたちの中へと命を分け与えるために十字架上でわたしたちのために与えた主の物質的な体です——ヨハネ 6:35, 57, 63. ルカ 22:19。

b. パンが表徴するのはまた、主の奥義的なからだ、すなわちキリストが彼の天の務めを遂行して神聖な行政を成し遂げるための手段です——エペソ 1:22-23, 4:16. 啓 5:6。

c. わたしたちは主の神聖な命にあずかり、彼を命のパンとして食べ享受することによって、彼の奥義的なからだ、彼の拡大となります—— I コリント 10:17, 12:27。

3. 主イエスは杯を取って感謝をささげ、それを彼らに与えて言われました、「みな、それから飲みなさい。これは、多くの人に罪の赦しを得させるために、注ぎ出されるわたしの契約の血である」——マタイ 26:27-28 :

a. 杯は祝福を意味し、それはわたしたちの分け前としての神ご自身です——詩

16:5。

- b. 主の救いはわたしたちの分け前、流れ出る救いの杯となりました。その内容は、わたしたちのすべてを含む祝福としての神です—— 116:13. 23:5。
 - c. 新しい契約の血としてのキリストの血は、わたしたちを新しい契約の中へと導き入れ、その中で神はわたしたちに新しい心、新しい霊、彼の霊、内なる命の法則、命の能力を与えて、神を知り、神を所有し、神によって所有されるようにし、わたしたちの罪科を赦し忘れる祝福を受けさせます——エゼキエル 36:26-27. ルカ 22:20. ヘブル 8:10-12. 詩 103:1-3, 12。
 - d. 契約の血はわたしたちを至聖所の中の神の臨在の中へと導き入れ、そこでわたしたちは彼の麗しさを見つめ、神の注入と伝達の中へと、神に対する永遠の享受の中へともたらされます。このように神を享受することは、神の人を生み出すものです—— 27:4. 出 24:8. 参照、レビ 16:11-16。
 - e. 究極的に、契約の血、永遠の契約は、神の民を、命の木また命の水としての神に対する満ち満ちた享受の中へと、今も、そして永遠に導き入れます——ヘブル 13:20. 啓 7:14, 17. 22:1-2, 14, 17。
- B. 「あなたがたがこのパンを食べ、その杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」—— I コリント 11:26. 参照、ローマ 5:10 :
- 1. 「主の死を告げ知らせる」とは、主の死を宣告し、展覧することです。彼の命を解き放つ死を告げ知らせることは、彼が法理的な贖いのために最初に来て、召会を生み出すことを告げ知らせることです——ヨハネ 12:24. 19:34。
 - 2. 「まで」は、キリストの有機的な救いの過程において、キリストを食べ飲みすることによって、召会が彼の最初の来臨と二度目の来臨の溝を橋渡しすることを暗示します。
 - 3. 「主が来られる」は、彼が二度目に来て神の王国を地上に確立することです。それはマタイ第 26 章 29 節で主が言われたようにです：「わたしの父の王国であるあなたがたと共に新しく飲むその日まで、わたしは今後、ぶどうからできたものを、決して飲むことはしない」。
 - 4. こうして、主が来られるまで主の死を告げ知らせることは、王国をもたらすために召会の存在を告げ知らせることです。わたしたちが主の晩餐を食べることは、主の二度の来臨において主を記念するという結果にならなければなりません。